



機関研究「手話言語と音声言語の比較に基づく新しい言語観の創生」

国際シンポジウム

みんぱく手話言語学フェスタ 2013

日時：2013年9月27日(金)～9月29日(日)  
[9月30日(月)通訳士交流会]  
場所：国立民族学博物館 講堂および第4、5セミナー室  
使用言語：英語、アメリカ手話、国際手話、日本語、日本語  
主催：国立民族学博物館  
共催：筑波技術大学  
協力：大阪芸術大学放送学科、大阪芸術大学テレビ事務室  
協賛：株式会社コングレ  
後援：日本語学会、日本手話学会、社会福祉法人全国手話研修センター、日本手話研究所、一般財団法人全日本ろうあ連盟  
助成：日本財団  
企画：菊澤律子(国立民族学博物館)

本シンポジウムは、言語の構造における基礎的な特徴のひとつである「語順」について、手話言語と音声言語を同時に観察することで、その概念が言語学においても意味について再評価することを目的とした。3日にわたるシンポジウムでは、手話・音声話者を迎えた模擬フィールドワーク、ろう者コミュニティの実話にもとづく中国のドキュメンタリー映画の映画会、世界の研究者を招聘した議論など、異なる複数のアプローチを用意した。また、大学院生、若手研究者、一般参加者(特に手話話者)及び語順研究の専門家という異なるグループを対象とした。これらは、それぞれの視点から、手話言語および音声言語における「語順」という概念の見直しの取り組みとなり、その成果を共有することができた。また30日には、シンポジウムの内容を受けて、日英同時通訳、日本手話-日本語、

アメリカ手話-英語、国際手話-英語の通訳士計25名がリレー通訳を含む学術通訳のノウハウ共有のための会議を行った。

機関研究「民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究—ロシア民族学博物館との国際共同研究」

国際シンポジウム

博物館コレクションの中のシベリア、極東諸民族の文化—収集、保存、展示方法の検討

日時：2013年10月13日(日)～14日(月)  
場所：国立民族学博物館 第4セミナー室  
主催：国立民族学博物館  
企画：Olga Shaglanova (ザバイカル地方民族学博物館、国立民族学博物館) 佐々木史郎(国立民族学博物館)



この国際シンポジウムの目的は、シベリアと極東ロシアの諸民族に関する博物館資料の形成史と保存方法、そして展示に関する諸問題を検討することにある。参加者は民族学的アプローチとともに、博物館学の新しい方法論も取り入れ、資料の歴史的、文化的価値の保存、そして文化の解釈としての展示という問題に取り組んだ。ロシアの中央、地方の博物館から招聘した研究者や学芸員と、シベリアと極東諸民族の文化を研究する日本の研究者が集い、対話を促進させた。研究者を招聘、あるいは研究報告を依頼した博物館は以下の通りである。ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館(サンクトペテルブルク)、ロシア民族学博物館(サンクトペテルブルク)、ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学人類学研究所附属博物館(ノヴォシビルスク)、イルクーツク郷土博物館(イルクーツク)、ザバイカル地方民族学博物館(ウラン・ウデ)、北海道立北方民族博物館(網走)。

機関研究「近代ヒスパニック世界における国家・共同体・アイデンティティ—スペイン領アメリカの集住政策の研究」

公開セミナー

トレドの集住政策研究の新展開

日時：2013年10月24日(木)  
場所：教皇庁立ペルーカトリカ大学(ペルー、リマ)  
共催：国立民族学博物館、教皇庁立ペルーカトリカ大学大学院アンデス研究プログラム  
企画：齋藤晃(国立民族学博物館)、クラウディア・ロサス・ラウロ(教皇庁立ペルーカトリカ大学)

集住政策とは広く分散する小規模な先住民の集落を計画的に造られた大きな町に統合する政策であり、スペイン統治下のアメリカ全土で実施された。その目的は、先住民のキリスト教化を促進し、租税の徴収と賦役労働者の徴発を容易にすることである。16世紀後半に副王フランシスコ・デ・トレドがアンデス地域で実施した政策は、150万の人びとを一千万の町に集住させる大規模なものであり、在来の居住形態、社会組織、権力関係、アイデンティティを大きく変えたといわれている。しかし、実施過程に関する記録が残されていないため、研究は進んでいない。

さいわい、近年集住政策への関心が高まっており、歴史学者や考古学者、人類学者が最新の研究成果を刊行しつつある。なかでも、ジェレミー・マンフォードの『垂直の帝国』、スティーヴン・ウィンキーの『交渉される村落』、マリナ・スロアガの『交渉される征服』の3冊は、従来の見解を刷新する重要な成果である。本セミナーでは、3人の著者に自著を紹介してもらうとともに、コメンテーターを交えてその学術的意義を論じた。

